

令和6年度 第3回野洲市総合計画・総合戦略評価委員会 議事要旨

●日 時

令和7年2月4日(火) 午前 10:00～12:00

●場 所

野洲市役所本館2階 庁議室

●出席委員(委員区分ごとに 50 音順で記載) ◎:委員長、○:副委員長

1号委員:○上田 洋平委員、◎大田 直史委員

2号委員:飯田 幸弘委員、川端 文代委員、林 かずみ委員、

3号委員:森 陽子委員

4号委員:熊本 正幸委員

(欠席)2号委員:田中 清三郎委員、松村 都子委員

●事 務 局

布施政策調整部長、小池政策調整部次長、

(企画調整課)玉川課長、中野課長補佐、田中主査

○会議概要

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

○第2次野洲市総合計画の後期基本計画策定に向けて

→各委員から分野3『産業・観光・歴史文化』、分野4『環境・都市計画・都市基盤整備』、分野5『市民活動・行財政運営』の施策に係る取組方針や指標等についてご意見をいただいた。

4. その他

→次年度の評価委員会は年1回、7月または8月の開催を予定している。

○評価委員の主な意見・質問等

施策	委員からの指標等に対する意見
3-1 商工業の振興	①製造業付加価値額(左記番号は、各施策における指標の通し番号であり、以下同じ。) ○大企業と中小企業で当指標に与える影響に偏りがあると思う。また、野洲市の規模で、どのような取組をすれば、数値に影響を与えるか不透明なこともあり、指標として適切か疑問がある。 ○市の取り組みがあって、数値の向上を図ることができる指標とすべき。 ○「製造業付加価値額」や「年間商品販売額」等、市の施策が影響を与えているか不透明な指標は参考指標とし、市で管理できる指標との2本立てで進捗管理してはどうか。

	②年間商品販売額 ○毎年の数字が追えず、進捗管理ができないことから、指標としていかなものかと思う。 ○市の取り組みがあって、数値の向上を図ることができる指標とすべき。 ③創業塾受講者数 ○創業塾の受講者に対して受講後のフォローを行い、実際に起業に結び付いたか検証する必要がある。 ○創業塾の開講により起業につなげていくのであれば、創業件数や創出雇用件数等の方が指標として相応しいと思われる。 (「支援」そのものの件数を指標とするのか、「結果」を指標とするのか整理する必要がある) 【その他、指標等に関する意見】 ○経済や産業という大きな視点で見ると、人材不足や AI の普及などにより職業環境が変化しており、時代に取り残されないための体制づくりに関する取り組みや、新たなめざすべき姿などを入れてみても良いのではと考える。 ○事業承継に着目し、事業の継続を図る指標があっても良いと思う。 ○主な取組に「移動販売等の新たな市民ニーズへの対応」とあるが、誰が主体的に移動販売を行うのか。移動販売自体はあれば良いと思うが、採算を取ることが難しく、また、移動手段としてのコミュニティバスを増便させることで目的が適えることができるのか、それぞれの採算性を検証する必要がある。
3-2 農林水産業 の振興	②認定農業者の法人化数 ○当指標に掲げる目標値について、農業振興計画や農業振興地域整備計画のような個別計画に記載している目標数値と整合性を図るべき。 ③「環境保全型農業直接支払交付金」取組面積 ○当指標とその目標について、関係者と共有する必要がある。 【その他、指標等に関する意見】 ○農地集約化や経営体制に係る指標が主なものとなっているが、ブランド力向上が測られる指標を設けてはどうかと考える。

	○地元特産品の販路を拡大させていくには、市民を巻き込んで推進していくことが重要であると思う。市民が発信主体となり、市民の応援体制をつくるには、販売場所や販売時期等の情報を、広報紙等を通じて市からも情報提供していくべきでは。
3-3 地域資源を生かした観光の振興	①観光入込客数 ○大型観光施設による数値が大半を占めるので、集客が大きい場所から市内の周遊につなげるような取組が重要と考えられる。 ○野洲市の魅力を向上させることで数値が上がる指標でなければ、市が力を入れて取り組むことは難しく、市民の協力も得られにくいと思う。 ○第2次野洲市観光振興指針に記載されている、「基本方針」、「基本戦略」、「重点事業」に関連する取組方針や主な取組、指標を設けるべきと考える。 【例：第2次野洲市観光振興指針に記載している重点事業】 ①野洲市ならではの体験型観光事業 ②野洲市のよいところ発見事業 ③湖と山をつなぐ観光周遊促進事業 ○観光入込客数だけでは、PDCAによる進捗管理が難しいと思う。 ○市外からの観光客に着目した指標となっているが、野洲の良さを市民がどれほど興味を持たれているか分からないので、市民向けの取り組みに係る指標も設けてはどうかと思う。 【その他、指標等に関する意見】 ○全国的にインバウンド向けの取り組みが活発している中、野洲では具体的な取り組みがなく、取り残されている感じがする。 ○発信した情報がいかに広がり、受容され、実際の行動につながったか等、データサイエンスを活かした分析はできないか。 ○オーバーツーリズムに係る問題が生じている自治体もあるので、ただ観光客を招くだけではなく、安全対策等の受け入れ体制づくりも同時に行っていく必要があると思う。 ○観光ガイドの育成等、観光を発信する側の「人」に着目した指標があっても良いのでは。
3-4 歴史文化遺産の保全・活用	①国・県・市指定文化財件数 ○指定文化財増加に関する具体的な取り組みがあれば、それを示せると良いと思う。 ②歴史民俗博物館入館者数 ○来館者増加に向けた具体的な取り組みがあれば、それを示せると良いと思う。

	【その他、指標等に関する意見】 ○教育振興基本計画に記載の「目標9:文化・歴史資源の保存活用の主な取り組み」に関する指標を追加すると PDCA による進捗管理が可能になるのではないかと。 例えば、地域の歴史と文化の継承、学習活動の推進に係る学習会、講習会の参加人数を指標として活用しても良いと思う。 ○取組方針「歴史文化遺産の魅力の発信」に関連する指標として、情報発信件数や市 HP の閲覧件数等の指標を設けてはどうか。また、発信側だけではなく、併せて受信側(観光客)のリアクションを捕捉できるようなものがあれば望ましい。 ○歴史文化遺産の魅力を発信していくには、ストーリーを軸として、広域の可能性も含めた「面」で発信することが重要であり、来てもらうための仕組みやツール(PR 動画等)が必要であると思う。 ○歴史文化遺産の魅力を発信していく人材育成の面も重要である。
4-1 均衡ある土地利用の推進	①居住誘導区域内の人口密度 ○目標を達成しているものの、指標は快適な居住空間につながっているとは言い難く、過密状況になることも考えられる。 ②JR 野洲駅乗降客数 ○主に通勤・通学者の往復した数値であり、この指標から何を読み取るのか不明瞭で、施策との関係性が分かりにくいことから再考すべきではないか。 ○この指標の数値を向上させるために、具体的に市でどのような取り組みを行えば良いか分析することは難しいが、駅の利用者や規模を把握することでハード整備の基準にもなることから、そのような目線では有効な指標かと思う。 ③活用した空き家数 ○この指標の数値について、実際は危険空き家の解体補助件数であり、活用した空き家数とは言えないのではないかと。空き家の解体自体は重要なことなので、「活用」と「解体」で指標を分けてはどうかと考える。 ○市内で登録されている「空き家バンク」は現状0件であり、どのように空き家の活用を進めていくのか考える必要がある。

	【その他、指標等に関する意見】 ○市街化区域について、どこまで拡大するか指標として設定すべきではないか。具体的な数値設定が難しいならば、何年までにどの段階まで拡大に向けた取り組みができるか等の、段階目標を設定してはどうかと考える。
4-2 自然環境・ 美しい景観 の保全	①違反広告物の数 ○目標を達成しており、更新が必要。また、地域別に分析してはどうかと思う。 ○景観に関する指標がこの指標だけということに少し違和感がある。景観に関する指標を追加できないか考える必要がある。 ②市民一人あたりの都市公園面積 ○この施策に関連する環境基本計画、景観計画、みどりの基本計画の目指すところの指標の設定は難しいが、総合計画の代表的指標として都市公園面積だけで施策評価できるとは考えにくいと思う。 ○市内では子どもが遊ぶ場所が限られており、ファミリー層から切望されている指標であると思われることから、積極的に進めていただきたい。 【その他、指標等に関する意見】 ○市民と協働で取り組んでいる「ビワマスプロジェクト」をこの施策の象徴的な事業として着目し、駅前地域でビワマス遡上産卵が観測できることを目標とすれば、自然環境・生態系を維持していることの証にもなるのではないかと。また、市全体でそのような活動に取り組んでいると発信することで、河川のゴミ防止、保全を応援・協力する動きにつながり、そのことで自然環境に対する市民への啓発も図れるのではないかと考える。 ○「野洲市生活環境を守り育てる条例」における企業の緑化率遵守は、開発時に重きを置かれているが、自然環境を維持するためには、継続的に維持管理していくことが重要である。企業の開発後、緑化に取り組んだ事業者に対して一定のスパンで経過報告を求め、その遵守率を指標にし、条例にも反映させれば実質的な緑化推進につながると思う。 ○市民の意識向上につながるような自然環境の保全や低炭素社会の形成に対応する指標があれば良いと思う。

4-3 生活環境の 保全と上下 水道サービ スの安定供 給	②市民一人あたりの年間ごみ排出量 ○家庭ごみと産業廃棄物を比較して分析するために、それぞれを分けて参考指標として設定してはどうかと考える。 ③水道水の有収率 ○本市の有収率は他市と比較しては低く、地震などの災害時に水道破損すると問題となることから、目標値を見直してはどうかと思う。 ④石綿セメント管更新率 ○八潮市の道路陥没事故のこともあり、地下埋蔵物に対してはこれから関心の高まることであると思う。地上のまちづくり、インフラ整備だけでなく、地下の目に触れぬ部分、いわば「都市の心肺機能」ともいえる部分のメンテナンスに関する市民の理解の増進と、情報共有が求められる。 【その他、指標等に関する意見】 ○世界的にも大きな課題である地球温暖化対策実行計画(R6 年 3 月)の指標であるCO2 削減(2013 年度:480kg→2030 年度:259kg)を見据えた指標を追加してはどうか。 ○取組方針において3R(リユース・リデュース・リサイクル)の推進と記載しているが、近年では、ゴミになるものや不必要なものは買わない、断るという「リフューズ」が重要視されており、これを加えた4R の推進が必要であると思う。
4-4 防災・減災 対策の強化	②災害時応援協定数 ○目標値を達成していることから、見直しが必要。 ○災害時の応援協定も重要であるが、災害が同時多発的に生じた際、物流が滞ることは避けられないと思う。このことから、自助 共助 公助の内、「自助」の意識向上に向けた取り組みや指標が必要と考えられる。 ○能登半島地震災害をはじめとするこれまでの災害対応を踏まえ、「受援」に係る取り組みや指標も重要であると考え。災害時に、情報発信や情報整理を迅速に行うことに加え、支援の受け入れ体制を確立することや、どのような団体が支援・協力してもらえるのか関係を築き、認識しておくことが重要である。 ○災害被害者を減らすために、「避難行動要支援者の把握・避難支援体制の構築」に関する指標が必要と思う。 ②メール配信サービス(防災)登録者数 ○高齢で一人暮らしの方や、普段メールを利用されていない方に向けた防災の啓発活動も必要。

	【その他、指標等に関する意見】 ○滋賀県では全国で比較しても台風や地震による被害が少なく、災害に対する意識が低く感じられるので、防災・減災に対する取り組みを強化いただきたい。
4-5 道路ネットワークの整備と交通安全の推進	①通勤時間帯における渋滞発生路線の数 ○基準値から変わっておらず、渋滞4路線が解消される見込みがあるのか、改めて検証する必要がある。 ②交通事故発生件数 ○目標から乖離があり、その要因は種々あると思われるので、その分析を行い、対策を練る必要があると思う。 ○例えば自転車関連について等、何か主要な事故要因に対する交通安全対策を行い、その指標を設定してはどうか。また、横断歩道手前で横断しようとする人がいる場合に停止する車がどの程度か、実際に、特定場所、日時で定期的に調査し、その割合を指標として測ってはどうか。何か具体的指標を設定することで、集中的に市民に注意喚起すると効果があると思う。
4-6 公共交通の利便性の向上	①コミュニティバス利用者数 ○目標値を達成していることから、見直しが必要。 【その他、指標等に関する意見】 ○主な取組では、「コミュニティバスの路線・運行本数の適正化」が挙げられているが、個人の満足度の幅が大きく、誰から見ての適正か検討していく必要がある。
5-1 市民活動・自治会活動の推進	①市民活動団体数 ○市の取り組みが十分とは思えないところがある。例えば、高齢化で団体のリーダーの後継者が不足しており存続が危うい、また、新規メンバー加入も困難な状況など、各団体では共通の課題があるが、市からのその観点での取り組みは見えない。 本市では、市民活動に関する課題を解決するための個別計画や方針がないので、他市で策定されている「市民活動推進計画」のような計画を、本市でも策定し、その中で、リーダー育成の研修会への派遣など、具体的な取り組みを計画的に行ってはどうかと考える。 ○既に目標値は上回っているが、担い手の減少、高齢化が進む中で団体の持続可能性を重要視するならば、団体の活動実態の把握を行うとともに、他団体との連携展開の可能性も視野に入れてはどうかと考える。

	○団体数が増えたのであれば、支援する内容や幅を見直すべきと思う。 【その他、指標等に関する意見】 ○2024 年の地方自治法改正で、260 条の 49 第 1 項に「〔市町村は、〕地域の多様な主体……と協力して、住民の福祉の増進を効率的かつ効果的に図るようにしなければならない。」と規定されており、市と地域の諸団体・自治会等との「協力」という観点での取組が今後課題になると想定される。
5-2 市民との情報共有の推進	①広聴制度利用件数 ○公聴制度利用件数よりも、資料や回答を、速やかにネットで公開し、そのことを情報媒体等で告知するほうが効果的ではないか。例えば、1 週間以内を公表できた割合を指標(100%目標)とするのはいかがか。 ○当指標も重要とは思いますが、「情報共有」には情報公開条例・個人情報保護法に基づく情報開示請求件数や、それに対する応答状況も重要ではないかと考える。 【その他、指標等に関する意見】 ○既存の広報手段だけでなく、様々な媒体を用いて、必要な情報が必要な人に届くシステム(プッシュ型)を検討いただきたい。 ○野洲市からの LINE による通知があるが、何か興味あるカテゴリー絞って受け取れるオプションがあると良いと思う。 ○高齢化が進んでいる中で、誰に対してどのような情報をどのような手段で届けていくのか精査していく必要がある。
5-3 効果的・効率的な行政運営	②電子化した行政手続き数 ○件数ではなく、電子化できる手続き(分母)、電子化した手続き(分子)でその達成率を指標にするとよいと思う。 ○システムの統一化等の電子化が、行政の効率化に必ずしもつながるとは限らないと考えられるので、慎重に進めていただきたい。 ○電子化は、既に目標を大幅に達成しているので、目標値の見直しが必要だが、これ以上増える余地があまりないのであれば、手続き数ではなく、利用者数にするなど、指標の見直しが必要。また、利用者が多いものについては、その分野に係るシステムを強化してはどうかと考える。

	【その他、指標等に関する意見】 ○市独自の研修以外にも、大学等の他の機関と連携した研修プログラムも職員の育成には有効なので、積極的に活用いただきたい。
--	--